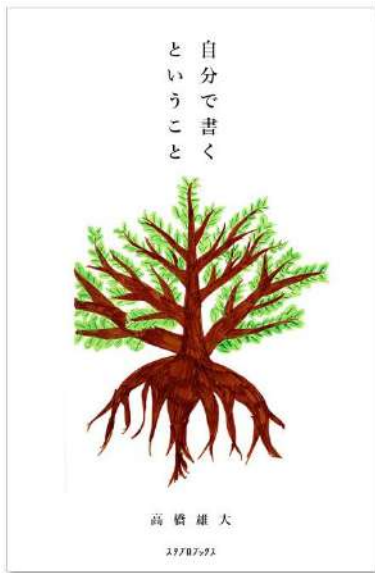


「本とは、樹木である」

AI時代に「自分で書く」意味を問う。

ひとり出版社の代表が贈る、書いて生きるためのインサイドストーリー。



高橋雄大 (たかはし・たけお / 本名：高橋武男)

1977年兵庫県加東市生まれ。関西外国語大学卒業。コピーライター、書籍編集者を経て、2008年にフリーランスの編集ライターとして独立。ビジネス書のブックライターとして70冊以上の執筆を手がける。2014年に加東市にUターン移住し、以降、田舎と都会を往復しながらライター活動を継続。2020年、スタプロブックス株式会社を設立。著書に、『奇蹟のネジ』（発売元：幻冬舎）、『波の章』（高橋雄大名義、PHPエディターズ・グループ）など。

## 自分で書くということ

高橋雄大著 / B6判変形並製本 / 80頁(想定) / 1,200円(税別) / ISBN978-4-910371-10-8

ライター25周年、ブックライターとして70冊以上を手がけてきた集大成。

誰に何を伝えたいのか、自分は何をしたいのか——自らの思いの根を張り巡らせて、主体的に人生を生きるための実践の記録です。

### 【本書の読みどころ】

本＝樹木：根（思い）を張るからこそ、幹（主題）が育ち、枝（章・節・項）が伸び、葉（言葉）が生い茂る。文章の技術以前に大切な「書くことの本質」について考えます。身体性の価値：AIには真似できない、自らの身体を現場に運んで得た「一次情報」の価値、そして紙の本という物質が結ぶリアルなコミュニケーションの可能性を考えます。実践と責任：身銭を切り、リスクを負って地方でひとり出版社を営む著者だからこそ語れる、「自分で書き、実践し、その責任を引き受ける」生き方を綴っています。

### 【こんな読者に届けたい一冊です】

- 本やZINEのづくり手、書くのが好きな方、出版の世界に興味のある方
- 情報に流されず、自分の人生を主体的に生きたいと願うすべての方へ

### 【目次・構成】（要約版）

- 自分で書くということ
- それは、根を張るということ（何を伝えたいか／綴じる、という不可逆の覚悟）
- それは、考えるということ（書くことは、考えること／考える力点を考える）
- それは、走るということ（身体を使って一次情報を取る大切さ／手をつなぐ）
- それは、生きるということ（責任を果たす／志を立て、自分の人生を生きる）
- 【コラム】読まれる文章・わかりやすい文章を書くためのちょっとしたコツ

本書は「買い切り」商品です。返品は受け付けておりません。ご了承くださいませ。

ご注文はJRCへ ▶▶▶ FAX:03-3294-2177  
(TEL:03-5283-2230)

|       |      |  |  |
|-------|------|--|--|
| 貴店番線印 | ご注文数 | 自分で書くということ<br>高橋雄大著                    | 本体価格：本体1,200円＋税<br>ISBN978-4-910371-10-8 C0095<br>発売日：2026年7月19日<br>B6変形判並製本・80頁（想定） |
| ご担当者  | 様    | 発行 スタプロブックス<br>〒673-1446 兵庫県加東市上田603-2 | 電話:0795-20-6719  |